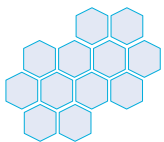


2027年2月期中間期 決算説明会

2026年10月19日

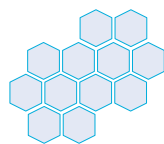
代表取締役社長 河田 淳



1 2027年2月期中間期 決算概要

2 2027年2月期 業績見通し

3 2027年2月期 重点取り組み



2027.2期 中間期 連結業績

中間期の売上高、営業利益は**増収増益となり、過去最高を更新。**

連結売上高：28,068百万円（前期比＋12.3%）

連結営業利益：2,454百万円（前期比＋52.4%）

（中東情勢は予断を許さないが、製品の安定供給は当面問題ない状態。
原反、インキ、光熱費、物流費は高止まり）

☀️乳製品・農産向けフードパック・水産加工品向け包材が好調に推移したこと、紙関係製品やトップシールの販売が増加したことにより食品関連は増収増益。（5月～7月は前倒し需要も有り）

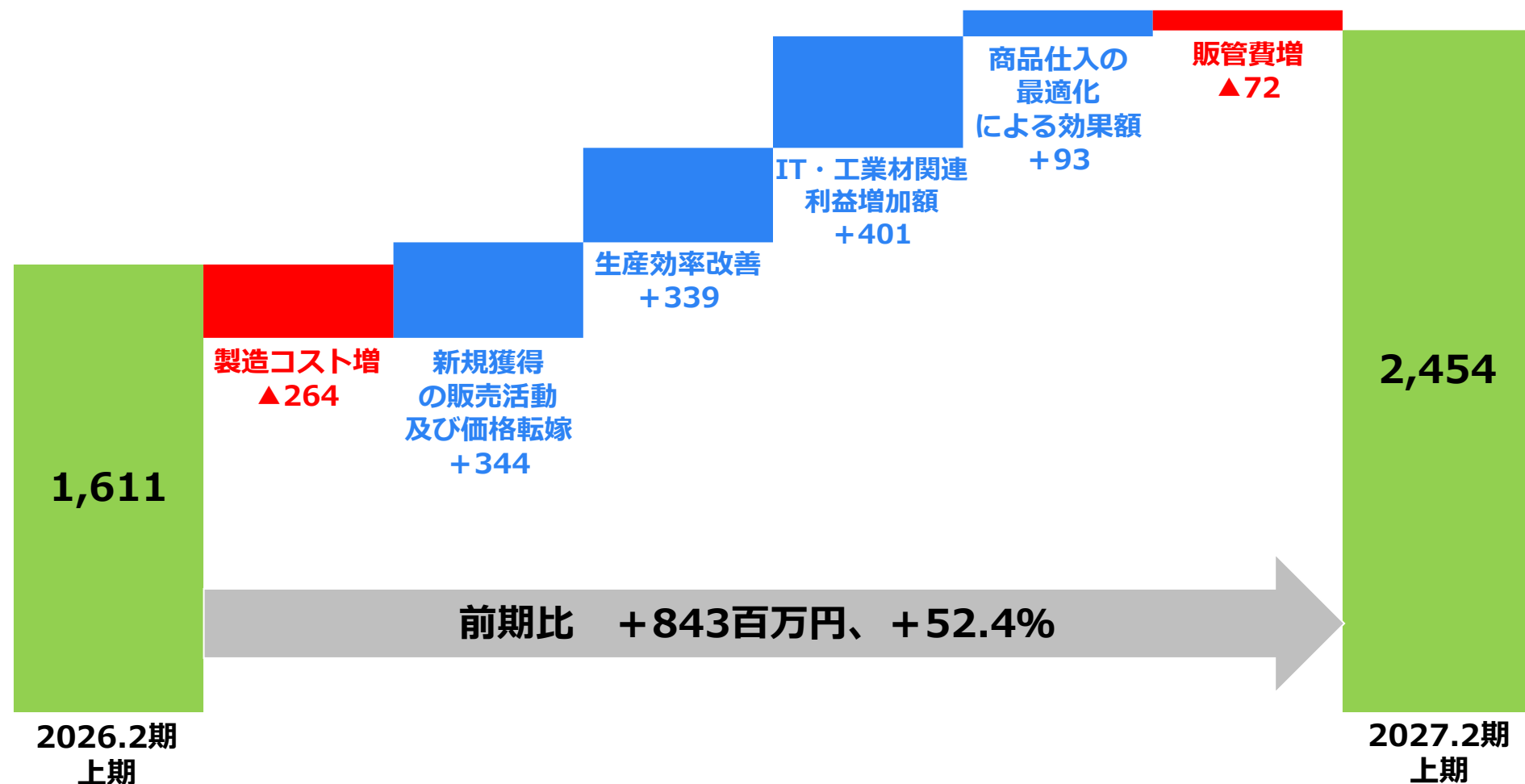
☀️IT・工業材関連ではスマートフォン用途や半導体関連、産業資材が増加したことにより増収増益。2026年5月に導入したPDコーター（テストコーター）は9月末より稼働開始。

☂️キッチンマットなどのキッチン関連商材が増加したものの、収納関連商材や防ダニ関連商材が減少したことにより生活資材関連は減収減益。

営業利益増減要因（前期比）

【連結営業利益】

（単位：百万円）
※百万円未満切捨



中間期決算ハイライト

(連結)

(単位：百万円、下段は構成比)

	2026.2期 2Q累計 実績	2027.2期 2Q累計					
		実績	前年同期比		期初計画	期初計画比	
			差額	比率		差額	比率
売上高	24,986	28,068	+3,081	+12.3%	25,500	+2,568	+10.1%
売上総利益	4,663 (18.7%)	5,579 (19.9%)	+915	+19.6%	4,730 (18.5%)	+849	+18.0%
販管費	3,052 (12.2%)	3,124 (11.1%)	+72	+2.4%	3,182 (12.5%)	▲57	▲1.8%
営業利益	1,611 (6.4%)	2,454 (8.7%)	+843	+52.4%	1,548 (6.1%)	+906	+58.6%
経常利益	1,567 (6.3%)	2,499 (8.9%)	+931	+59.4%	1,652 (6.5%)	+847	+51.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,059 (4.2%)	1,641 (5.8%)	+581	+54.8%	1,062 (4.2%)	+579	+54.5%
設備投資額*	1,040 (4.2%)	307 (1.1%)	▲732	▲70.4%	1,058 (4.1%)	▲750	▲70.9%
減価償却費	602 (2.4%)	631 (2.3%)	+29	+4.8%	654 (2.6%)	▲22	▲3.4%

*：設備投資額には建設仮勘定は含まない

(注)換算レート 2027.2期2Q 23.78円/元 162.45円/ドル

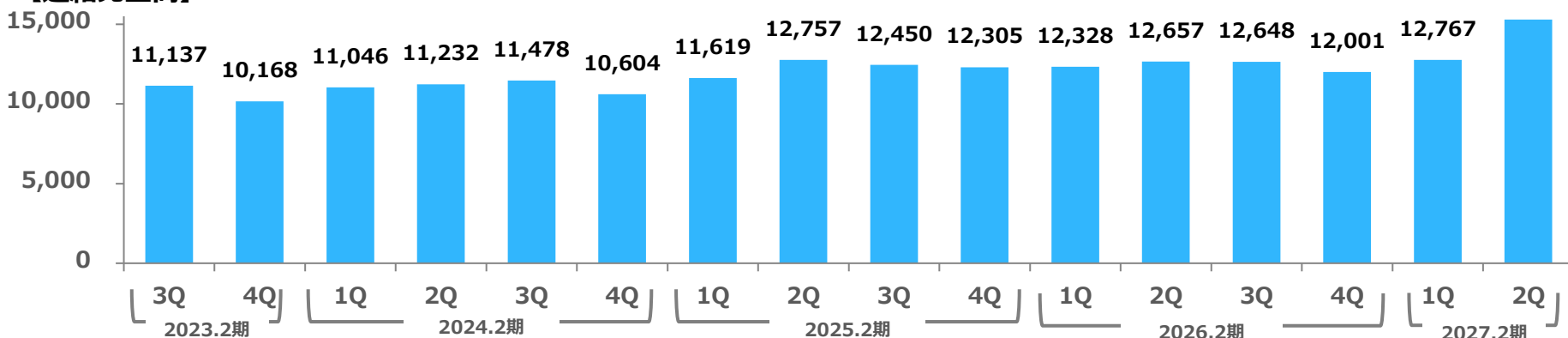
中間期決算ハイライト

四半期毎 売上・営業利益推移

- ・ 2027年2月期1Q、2Qともに売上と利益過去最高
- ・ スマートフォンなどのモバイル機器関連、半導体関連が好調
- ・ 紙関係製品やトップシールが増加

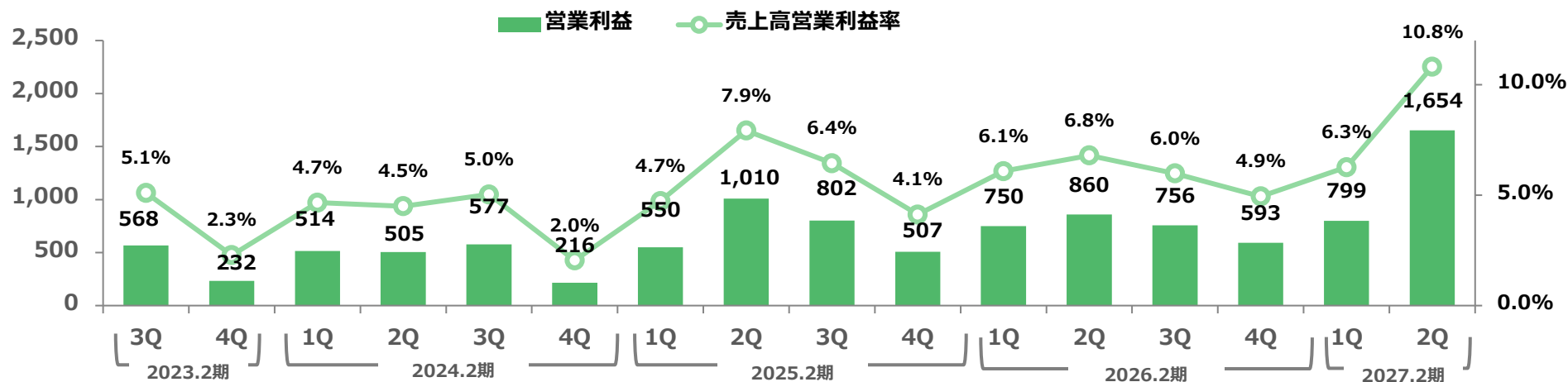
(単位：百万円)

【連結売上高】



【連結営業利益】

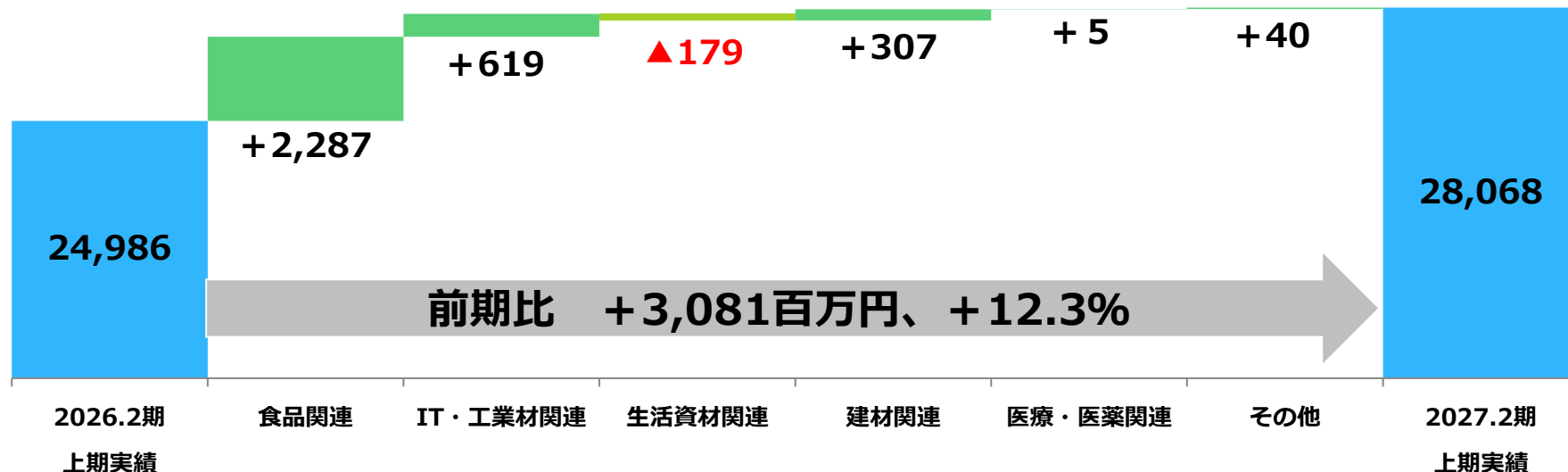
(単位：百万円)



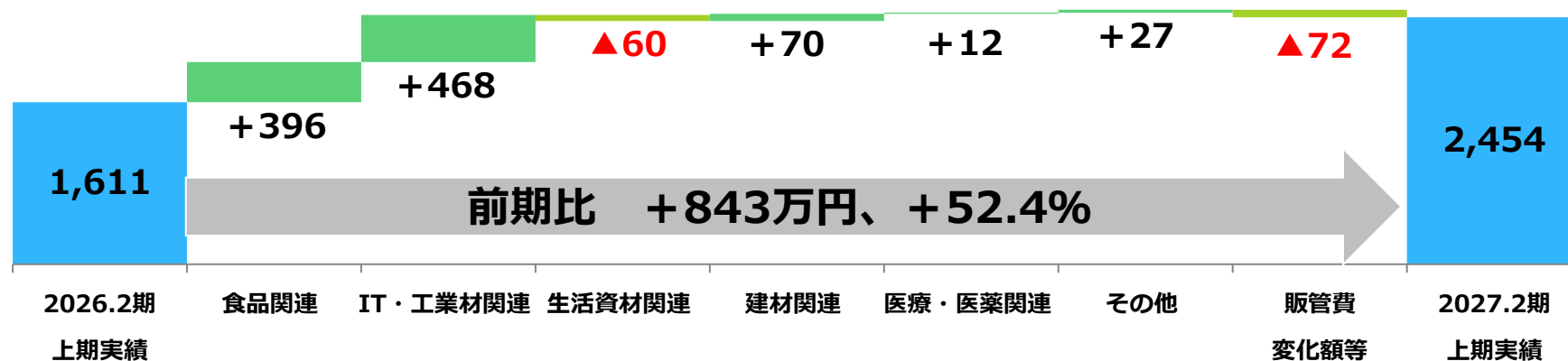
売上高・営業利益増減要因（前期比）

【連結売上高】

（単位：百万円）
※百万円未満切捨



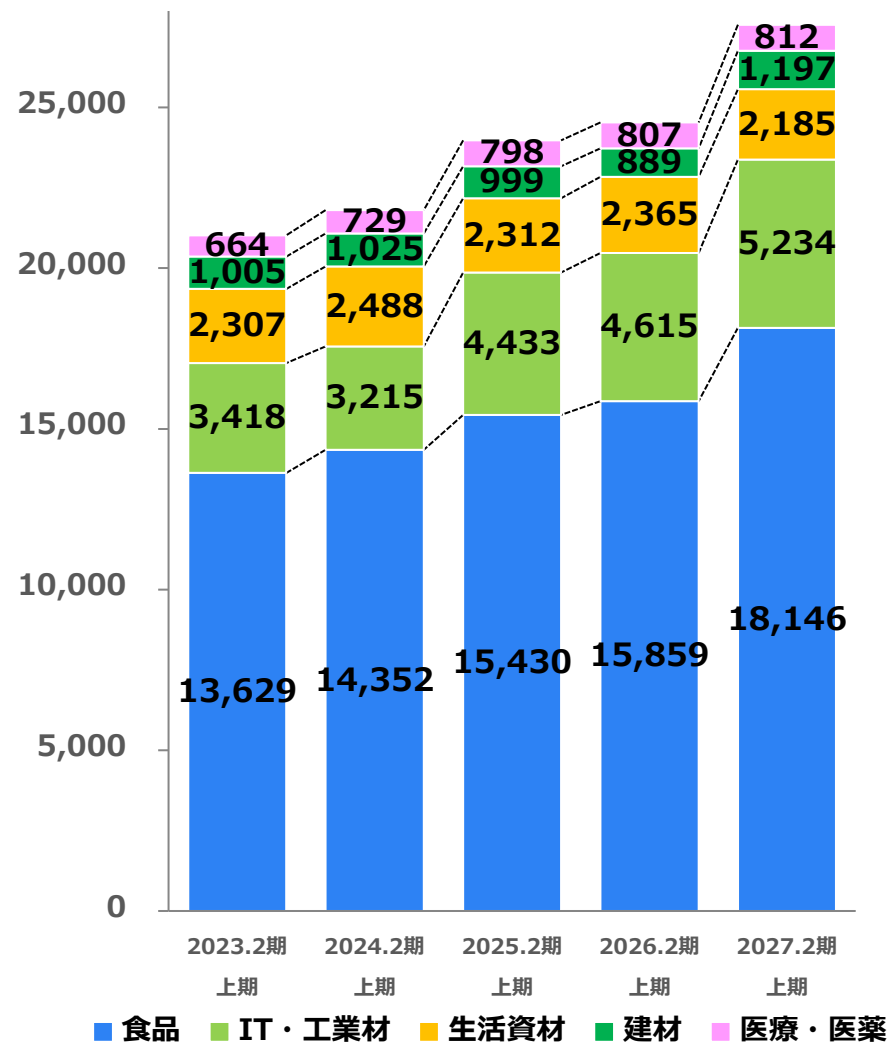
【連結営業利益】



用途別売上高・売上総利益の推移

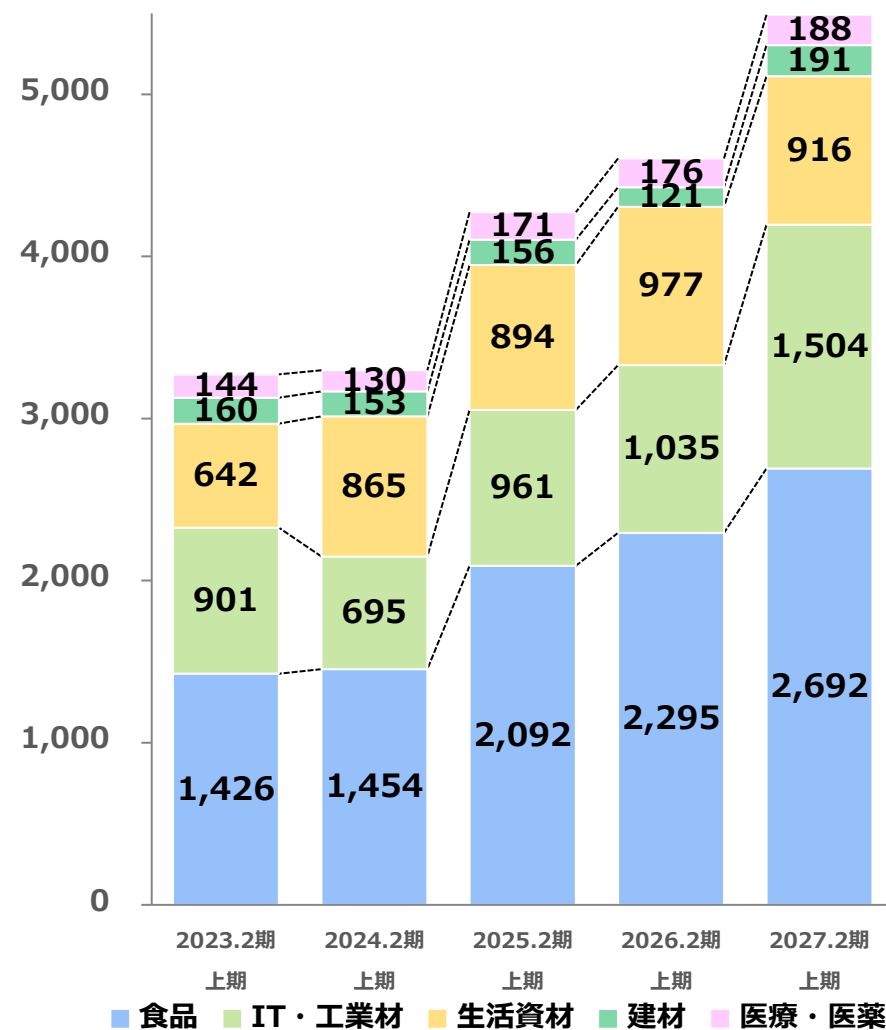
(百万円)

【連結売上高】



(百万円)

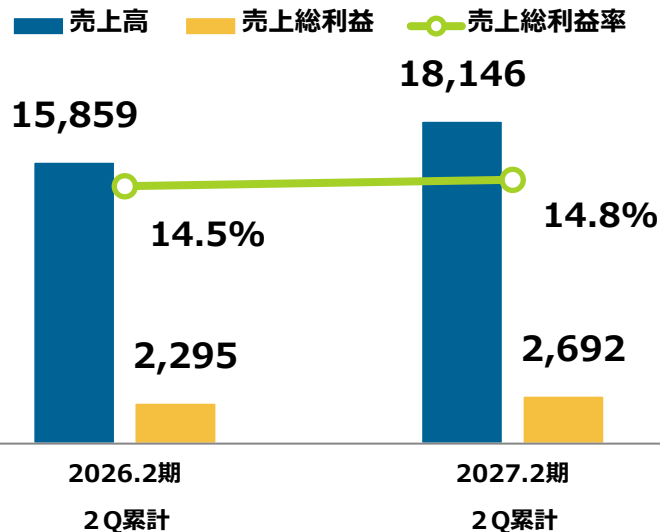
【連結売上総利益】



用途別状況 食品関連

食品関連

(単位：百万円)



■ 主要製品別販売状況

加工食品関連	- 豆腐用包材、ソーセージなどの食肉加工品向け包材が好調 - 冷凍食品向け包材が堅調
乳製品関連	既存のヨーグルトやチーズなどが好調
コンビニ関連	容器成型加工が好調
農・水産関連	農産向けフードパック、水産加工品向け包材が好調

当社製品 採用例



パスタ容器



弁当容器イメージ



飲料蓋

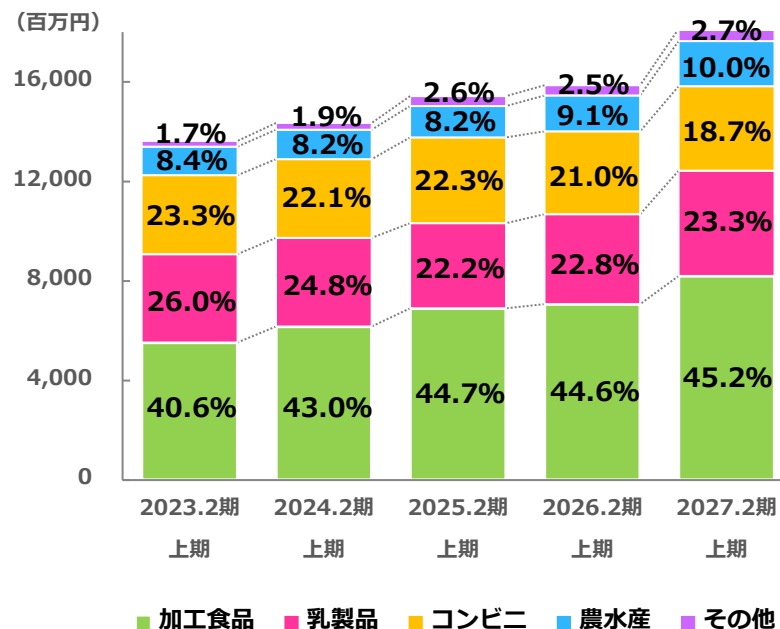


食肉加工向けパッケージ
(ソーセージ)



デイリー食品容器

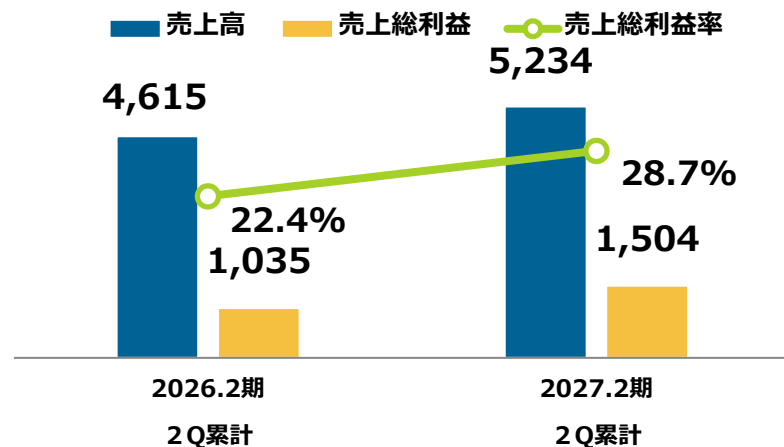
■ 主要製品別販売構成比 (連結)



用途別状況 IT・工業材関連

IT・工業材関連

(単位：百万円)



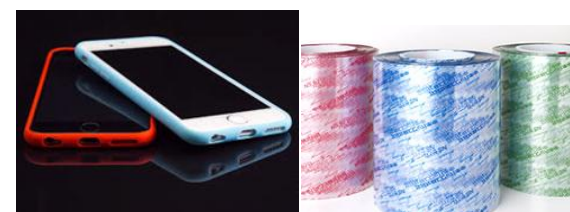
■ 主要製品別販売状況

産業資材関連	・ EC関連資材が好調
モバイル機器関連	・ スマートフォン用途が増加
半導体関連	・ 電子部品パッケージ材料等が好調
自動車関連	・ 自動車内装材が減少
二次電池関連	・ スポット受注のみ
その他	・ 各種開発案件が増加

当社製品 採用例



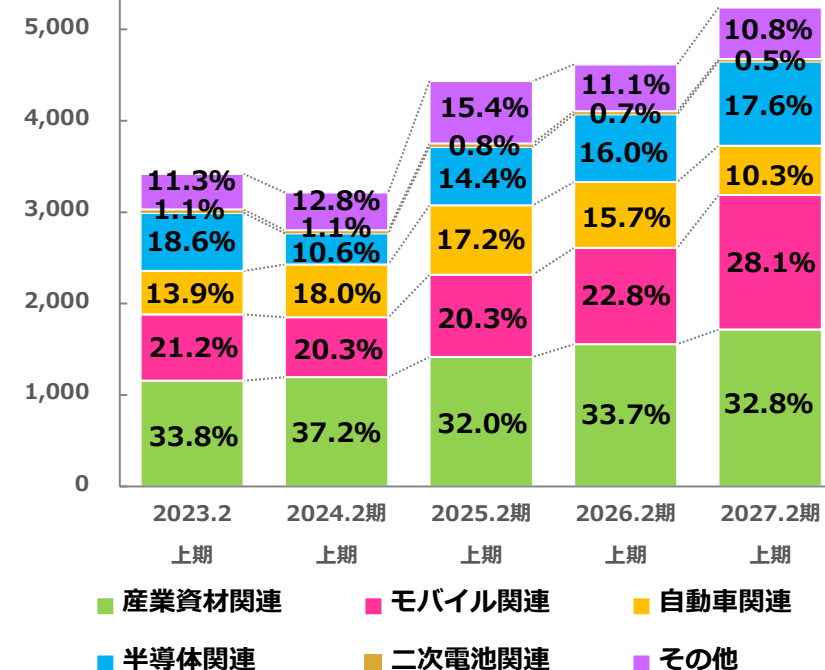
各種工程フィルム



NSセパ

■ 主要製品別販売構成比（連結）

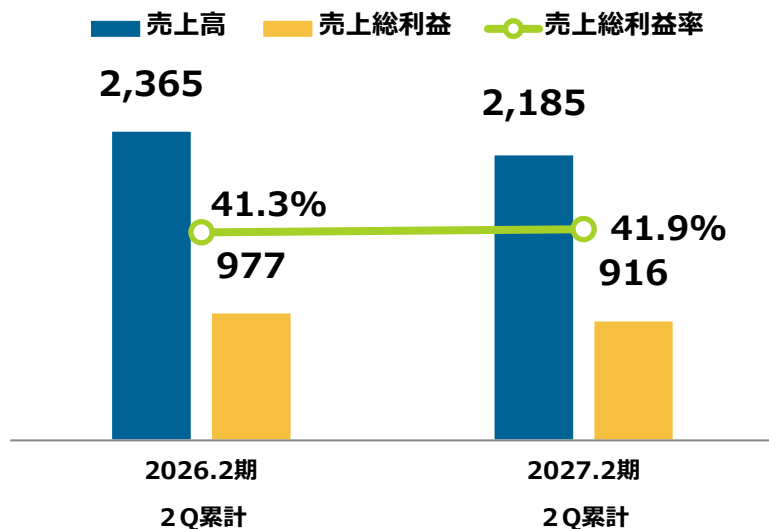
(百万円)



用途別状況 生活資材関連

生活資材関連

(単位：百万円)



■ 主要製品別販売状況

圧縮袋・衣類関連	・テレビショッピング放映枠縮小の影響で減少 ・収納関連商材や防ダニ関連商材が減少
キッチン・衛生関連	・利益率の高い自社商品の販売が堅調
DIY・インテリア・エコ関連	・キッチンマットが増加
理容・美容・健康関連	・毛染関係（くし、手袋）が堅調

当社製品 採用例



エアコン室外機用
遮熱シート



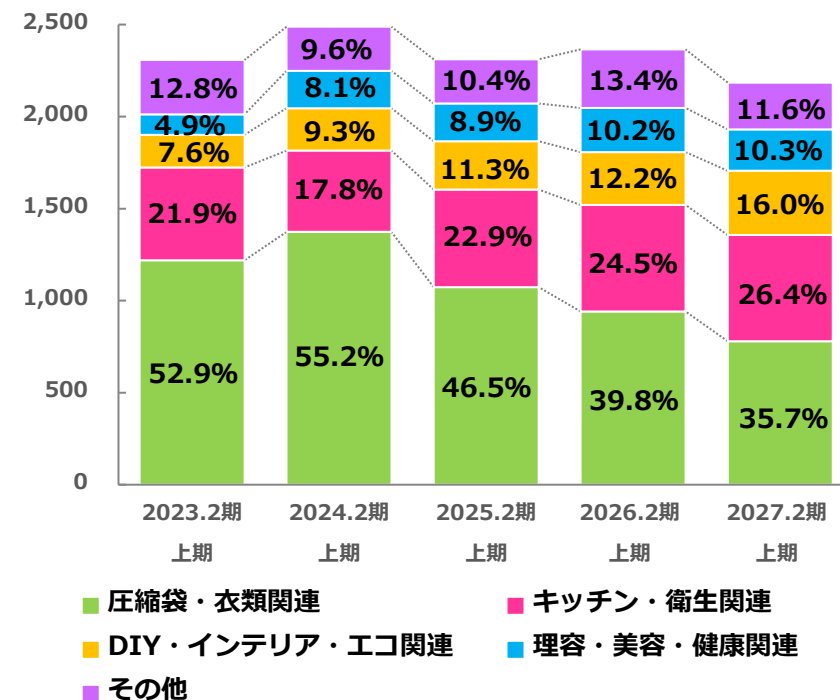
フライパンシートにもなる
まな板シート



ワッフル
シートたわし

■ 主要製品別販売構成比（連結）

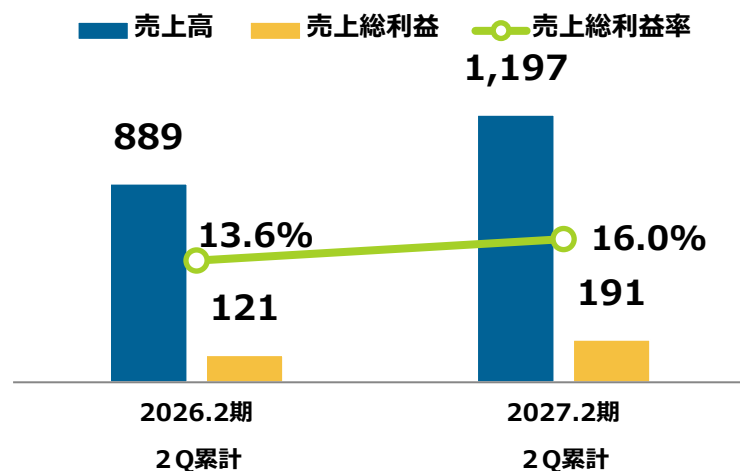
(百万円)



用途別状況 建材関連

建材関連

(単位：百万円)



■ 主要製品別販売状況

住宅関連	・ 壁紙向け印刷や表面機能コーティングを施した建材が増加
家具関連	・ 海外向け案件が堅調

■ Nコート

Nコートはポリプロピレン系の合成紙であり、水に強い性質を活かし、主に自動販売機用のラベル、床材に使用されている。



当社製品 採用例



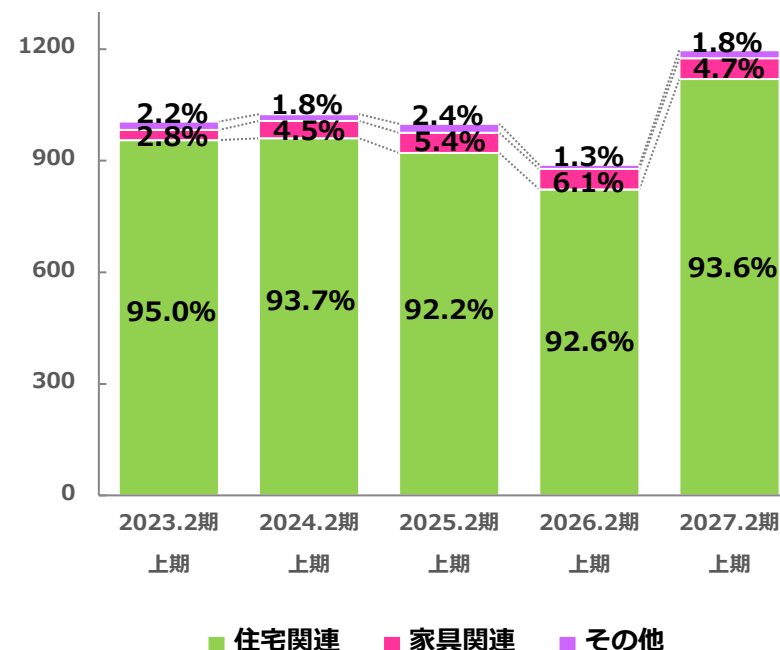
キッチン



クローゼット

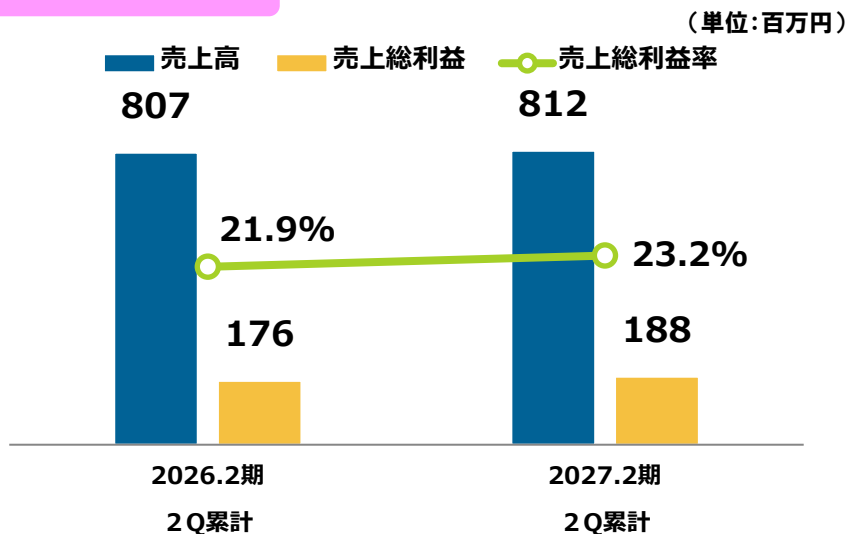
■ 主要製品別販売構成比（連結）

(百万円)



用途別状況 医療・医薬関連

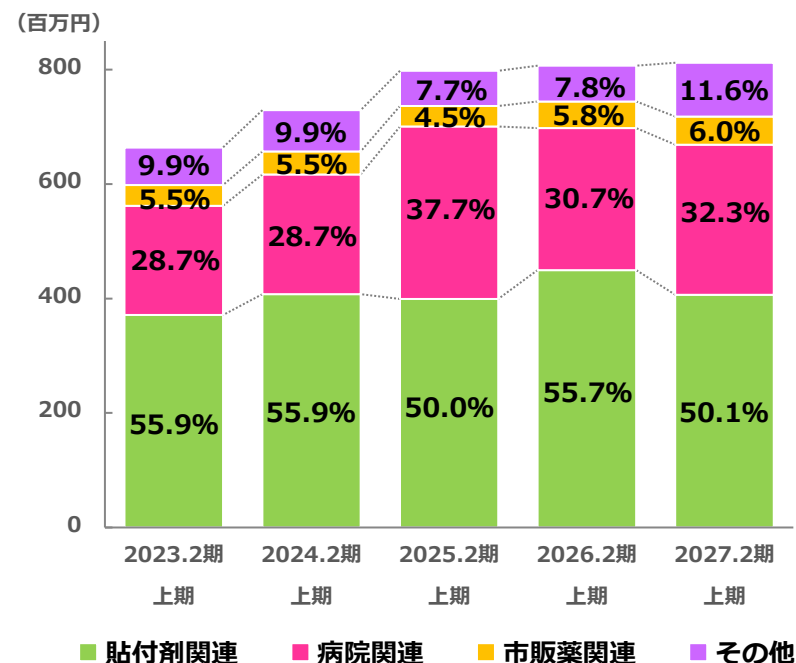
医療・医薬関連



■ 主要製品別販売状況

貼付剤関連	- 比較的高価格帯の貼付剤向けが減少 - 一部の製品で原材料が高騰
病院関連	- 輸液関係包材が堅調に推移 - 医療用の包装袋が減少
市販薬関連	市販薬用包材が堅調

■ 主要製品別販売構成比 (連結)



資産・負債の状況

(連結)

(単位：百万円、下段は構成比)

		2026.2末		2026.8末	
				前期末比差額	主な増減要因
	流動資産	25,240 (62.3%)	27,794 (63.5%)	+ 2,553	現金及び預金 + 870、受取手形、売掛金及び 契約資産 + 624、電子記録債権 + 532、 棚卸資産 + 793、その他▲266
	固定資産	15,282 (37.7%)	15,982 (36.5%)	+ 699	有形固定資産 + 568、 投資その他の資産 + 152
資産合計		40,523 (100.0%)	43,776 (100.0%)	+ 3,253	
	流動負債	14,934 (36.9%)	16,593 (37.9%)	+ 1,659	支払手形及び買掛金 + 564、 短期借入金 + 1,291、未払法人税等 + 364、 電子記録債務▲388、その他▲271
	固定負債	3,495 (8.6%)	3,532 (8.1%)	+ 37	長期借入金 + 47
負債合計		18,429 (45.5%)	20,126 (46.0%)	+ 1,696	
純資産合計		22,093 (54.5%)	23,650 (54.0%)	+ 1,556	利益剰余金 + 1,311、 為替換算調整勘定 + 203
負債・純資産合計		40,523 (100.0%)	43,776 (100.0%)	+ 3,253	
ネット有利子負債		91 (0.2%)	460 (1.1%)	+ 368	短期借入金 + 1,291、長期借入金 + 78、 現金及び預金 + 870

ネット有利子負債 = (有利子負債 - 現金及び預金)

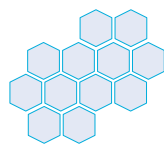
キャッシュ・フローの状況

(連結)

(単位：百万円)

		2026.2期 2Q累計 実績	実績	2027.2期 2Q累計 概要
	営業活動によるキャッシュ・フロー	949	829	税金等調整前中間純利益 + 2,499、 減価償却費 + 631、仕入債務の増加額 + 192、 売上債権の増加額 ▲1,134、 棚卸資産の増加額 ▲746、その他 ▲194、 法人税等の支払額 ▲431
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲720	▲958	固定資産の売却による収入 + 274、 固定資産の取得による支出 ▲1,181、 投資有価証券の取得による支出 ▲114
フリー・キャッシュフロー		228	▲128	
財務活動によるキャッシュ・フロー		▲423	902	短期借入金の純増額 + 1,291、 長期借入れによる収入 + 600、 長期借入金の返済による支出 ▲521、 リース債務の返済による支出 ▲131、 配当金の支払額 ▲329
現金及び現金同等物の換算差額		▲116	77	
現金及び現金同等物の増減額		▲311	851	
現金及び現金同等物の期首残高		7,552	7,569	
現金及び現金同等物の中間期末残高		7,240	8,421	

- 1 2027年2月期中間期 決算概要
- 2 2027年2月期 業績見通し**
- 3 2027年2月期 重点取り組み



当期の業績見通し（概況）

食品関連

中間期（第2四半期）まで

- ・ 既存のヨーグルトやチーズなどの乳製品、農産向けフードパック、水産加工品向け包材、豆腐用包材、食肉加工品向け包材が好調
- ・ 紙関係製品やトップシールの販売が増加
- ・ 冷凍食品向け包材は堅調

IT・工業材関連

- ・ スマートフォン用途などのモバイル機器関連や半導体関連、EC関連資材などの産業資材関連が増加
- ・ 次世代電池関連はスポット案件があった

生活資材関連

- ・ キッチンマットなどのキッチン関連商材が増加
- ・ 収納関連商材や防ダニ関連商材は減少
- ・ 国内不況、円安、米国関税による中国勢との競合続き伸び悩み

建材関連

- ・ 壁紙向け印刷や表面機能コーティングを施した建材が増加
- ・ 新規案件の受注が寄与

医療・医薬関連

- ・ 輸液関係包材が堅調に推移
- ・ 貼付剤関連や医療用の包装袋は減少

現況・第3四半期以降

- ・ 環境対応包材、機能性包材の取組強化
- ・ RNスマートパッケージングの利益貢献
トップシール、スマレンジ®の採用拡大
- ・ 供給不安による前倒し受注の反動減
- ・ **中東情勢により製造コストは更に上昇
原材料、インキ確保、コスト改善徹底**
- ・ スマートフォン用途などのモバイル機器関連や半導体関連は堅調な受注を見込む。
- ・ 半導体関連では新規案件の受注見込み
- ・ PDコーターの稼働開始、試作から量産へと繋げていく
- ・ ベトナム自社設備での製造、開発、差別化
- ・ 新商品の開発、販路拡大の継続
- ・ 円安、米国関税による中国勢等の競合続く
- ・ 営業活動を強化し、新規案件獲得に努める
- ・ 新機能性建材の取り組みにより生産効率向上を図る
- ・ 輸液関係包材の新規開発案件の拡販

設備投資・減価償却費 計画

(連結)

(単位：百万円、下段は構成比)

	2026.2期 実績	計画	2027.2期	
			前期比	
			差額	比率
設備投資額	1,472 (3.0%)	1,560 (3.0%)	+ 88	+ 6.0%
減価償却費	1,259 (2.5%)	1,373 (2.6%)	+ 113	+ 9.0%

【2027.2期の主な設備投資】

件名	内容	投資金額（億円）
工場・生産設備	PDコーター（埼玉）、改修工事(竜ヶ崎・筑波等)、印刷機等更新工事(埼玉・竜ヶ崎等)、成型機(中本 F i n e P a c k)、製袋機(中本アドバンストフィルム)他	約11.3億円
IT化・システム付帯設備	太陽光発電システム（中本アドバンストフィルム）、基幹システム関連他	約0.5億円
空調関連	空調設備(柏原・埼玉・竜ヶ崎・筑波・蘇州)	約1.4億円
検査・測定・分析機器	検査・測定・分析機器(名張・埼玉・筑波・技術開発等)	約2.0億円

当期の業績見通し

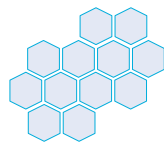
(連結)

(単位：百万円、下段は構成比)

	2026.2期 実績	2027.2期（9/14開示）		
		計画	前期比	
			差額	比率
売上高	49,635	55,000	+5,364	+10.8%
売上総利益	9,137 (18.4%)	10,274 (18.7%)	+1,136	+12.4%
販管費	6,176 (12.4%)	6,400 (11.6%)	+223	+3.6%
営業利益	2,961 (6.0%)	3,874 (7.0%)	+912	+30.8%
経常利益	3,054 (6.2%)	4,000 (7.3%)	+945	+31.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,175 (4.4%)	2,566 (4.7%)	+390	+17.9%

想定為替レート 20.1円/元 142.0円/ドル

- 1 2027年2月期中間期 決算概要
- 2 2027年2月期 業績見通し
- 3 2027年2月期 重点取り組み**



- 1. 中東情勢の中、原材料の安定調達・製品の安定供給を継続する**
- 2. 積極的なM&A（積極的な検討を継続）**
- 3. 環境経営の推進（RNSPの収益化）**
- 4. テストコーター立上げ（2次電池材料その他）**
※「PDコーター」に名称変更いたしました
- 5. 新研究開発拠点【R&Dセンター】の立上げ**
- 6. SCM部設立による生産の最適化**

対処すべき環境課題

環境問題	脱プラ	温暖化 CO ₂	大気汚染
------	-----	---------------------	------

当社の取り組み内容

原材料	薄肉化	バイオマス 生分解化	モノマテ化 リサイクル	紙化
インキ 接着剤	ノン トルエン化	バイオマス インキ	水性化	脱墨化
食品ロス削減	賞味期限延長	バリア包装		トップシール化

印刷ロスを再生樹脂に加工するリペレット事業、太陽光発電導入、時間当たりの生産性アップ、設備の省エネ、各種効率化による、省資源、CO₂削減も進めております。

RNスマートパッケージング(株)ー(株)リコーとの取組状況

1. ラベルレスサーマルの更なる拡販（コンビニ、冷凍弁当、その他新規用途）
2. オリジナル自動蒸通機構「スマレンジ®」の開発及び上市
3. RESC®の用途開発及び拡販

ラベルレスサーマル

環境負荷低減

プラスチック使用量削減可能
フードロス削減

生産性向上

直接印字で在庫削減

SKU削減

在庫管理業務削減



トップシール用途での採用拡大

スマレンジ®

自動蒸通機構「スマレンジ®」 オリジナル製品



特殊インキを特殊な形状でフィルムにコーティング。
電子レンジ10秒でフィルムに微小な穴が空き、内部の圧力を放出すると共に、蒸らし効果で食材をおいしく温める事が出来る。

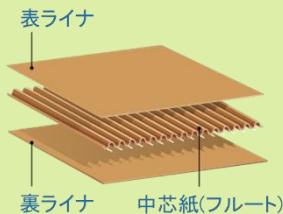
(株)アクセアの冷凍弁当で採用

バリアコート紙 RESC®

・紙とバイオマス材料の複合品
⇒CO₂削減効果もある次世代SDGs対応パッケージング素材

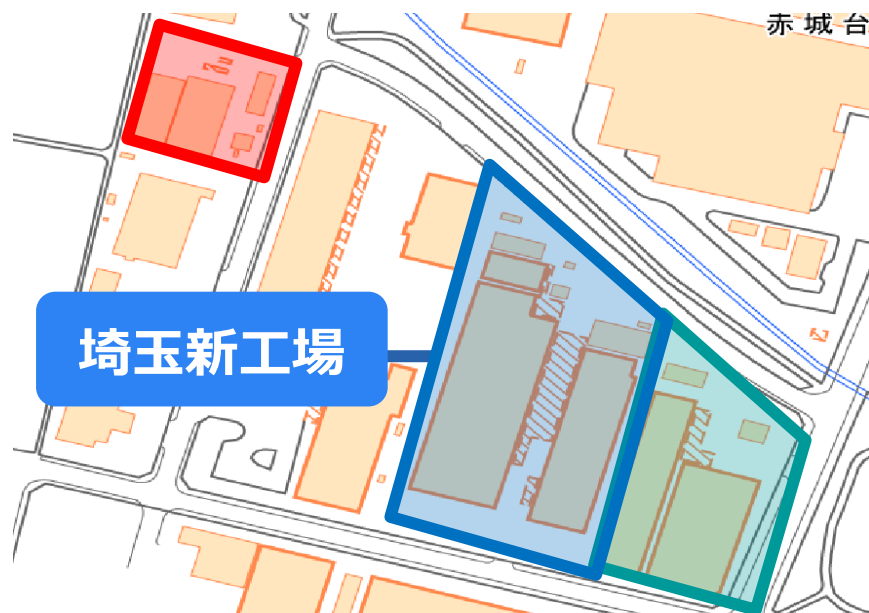
多様な性能

ガスバリア性・保香性・耐油性・リサイクル性
⇒鮮度保持、保湿性、保存性、臭い漏れ・移り香防止



新コーター機名称について

研究開発ではなく、量産を見据えた塗工方式などの工程開発という位置付けで Process Development Coater P D コーター といたしました。



～昨年取得した埼玉新工場に P D コーターを導入、今年 9 月末から稼働開始～

今年9月末より稼働開始



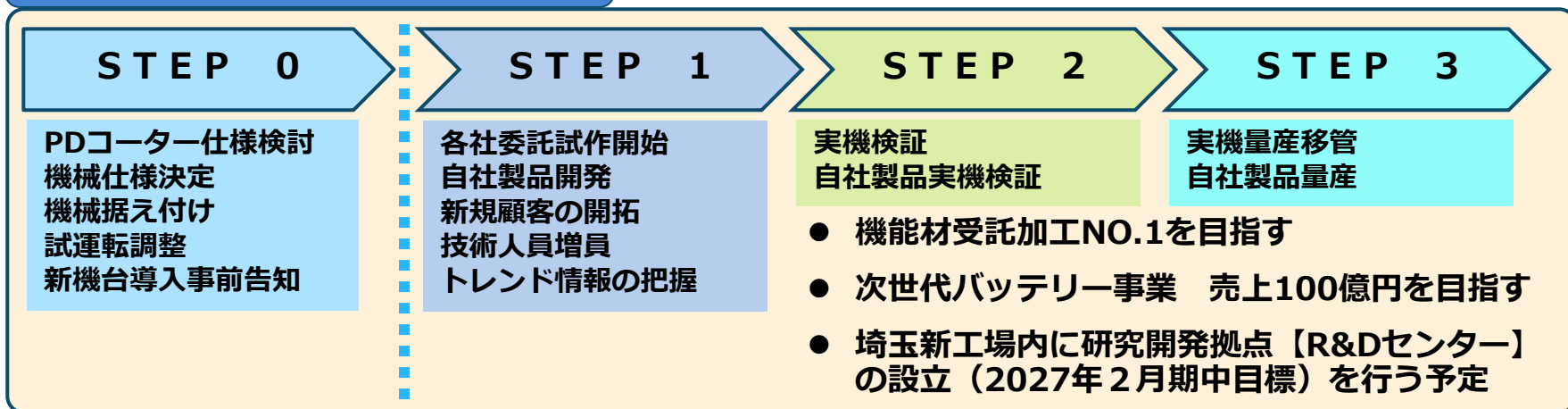
仕様	マルチコーター	P Dコーター	量産コーター
塗工方法	大径グラビア・小径グラビア、 コンマ式コート	大径グラビア・小径グラビア、 コンマ式コート	大径グラビア・小径グラビア、 コンマ式コート、ダイコート、 ロータリースクリーン
間欠塗工	×	○	○
機械速度	1～10m/min	1～20m/min	10～250m/min
基材幅	～250mm	100～400mm	500～1700mm
乾燥温度	MAX150℃	MAX140℃	MAX220℃
使用塗材量	0.1 kg～	2 kg～	10kg～
使用目的	開発初期段階	開発初期～中期	開発中期～量産

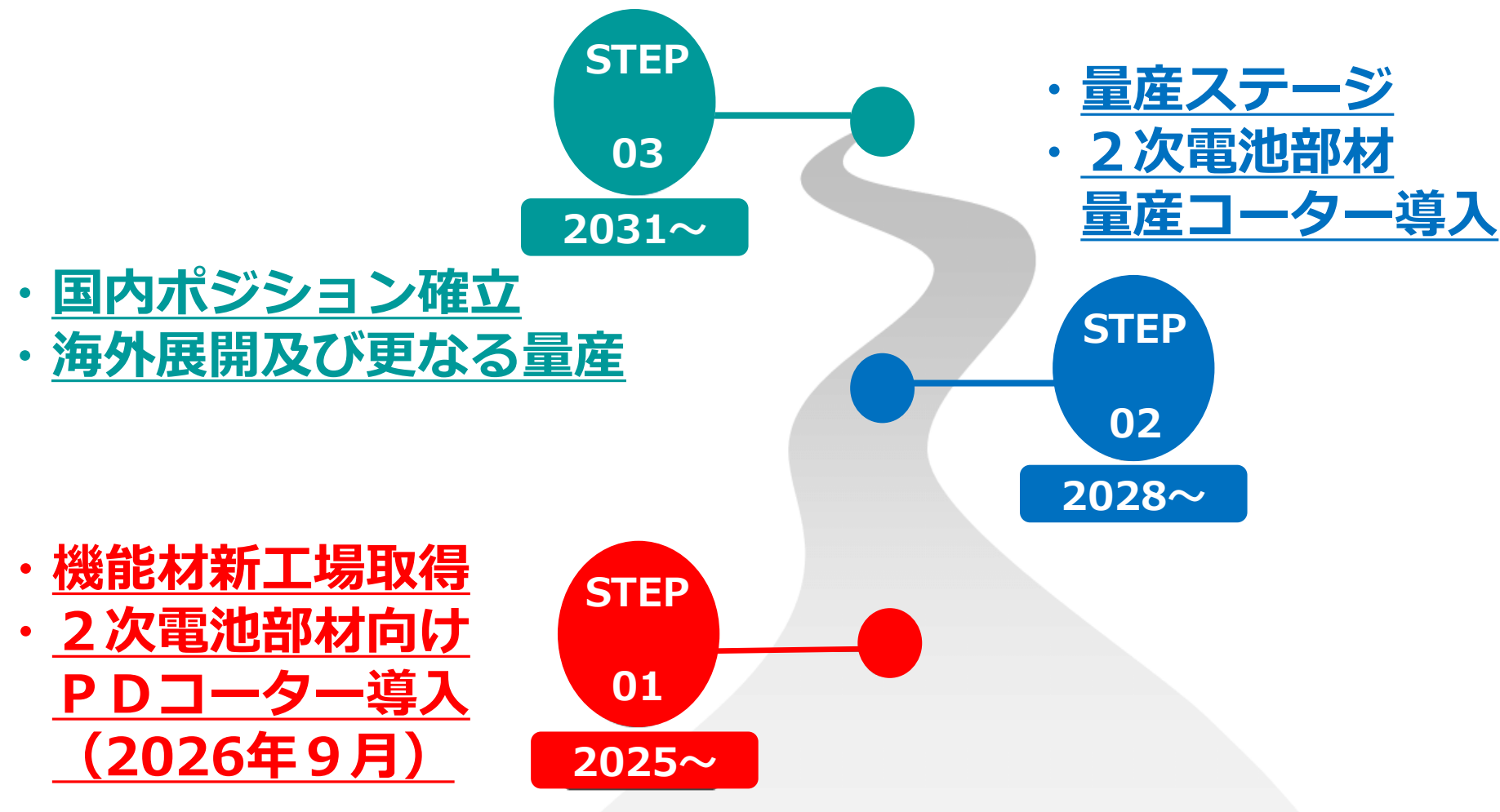
新たに参入できる領域

参入領域	具体例
2次電池	全固体電池、リチウムイオン電池、ナトリウムイオン電池、電池部材の機能性コーティング
半導体・電子材料	機能性コート、絶縁材料、導電材料、回路形成、微細パターン印刷
環境・脱炭素	PFAS代替材料、バイオマス材料、リサイクル対応材料
医療・ヘルスケア	メディカルフィルム、診断材料、ウェアラブルデバイス向け材料

市場のニーズを的確に捉え、新たな提案や技術の蓄積につなげる

今後の取り組みについて





生産工順の変更による物流費削減と生産性向上

- ・ 生産拠点を再考することにより、原材料の調達から生産、在庫管理、物流、販売に至るまでの一連の流れ(サプライチェーン)を最適化します
- ・ 主目的は、品質向上・納期短縮・原価低減・在庫適正化・BCP強化

さらに、

1. 物流効率化法 ⇒ トラック予約システム導入による荷待荷役時間短縮
2. 物流2030問題 ⇒ 物流の「量・距離・回数・積載率」を適正化
3. 環境 ⇒ 「ムダに運ばない・持たない・動かさない」物流の実現
にも対応予定



物流費削減と生産性向上のためのロードマップ

ステップ 1～5	キープポイント
ステップ1 (2026) : 法令順守・ 物流と生産の再編	・荷待・荷役時間の把握と短縮 ・生産工順の変更による物流費削減と生産性向上 (納期短縮、製造原価低減、在庫削減)
ステップ2 (2027) : 効率化の実行フェーズ	・輸配送管理システム等の導入による積載率可視化 ・荷姿の標準化検討とパレット化率向上
ステップ3 (2028) : 物流効率化法への適合	・生産計画と出荷計画の同期(受注～配車一元化) ・幹線輸送と二次配送の役割分離モデル構築
ステップ4 (2029) : サプライチェーン最適化	・生産負荷の平準化と物流負荷の平準化連動 ・部分自動化(自律走行搬送ロボット・自動ラック) 導入判断
ステップ5 (2030) : コスト競争力の強化	・ハブ&スポーク型の拠点再設計 ・共同物流ネットワークの拡大(積載シェアリング)

中期業績目標（中期経営計画2027）

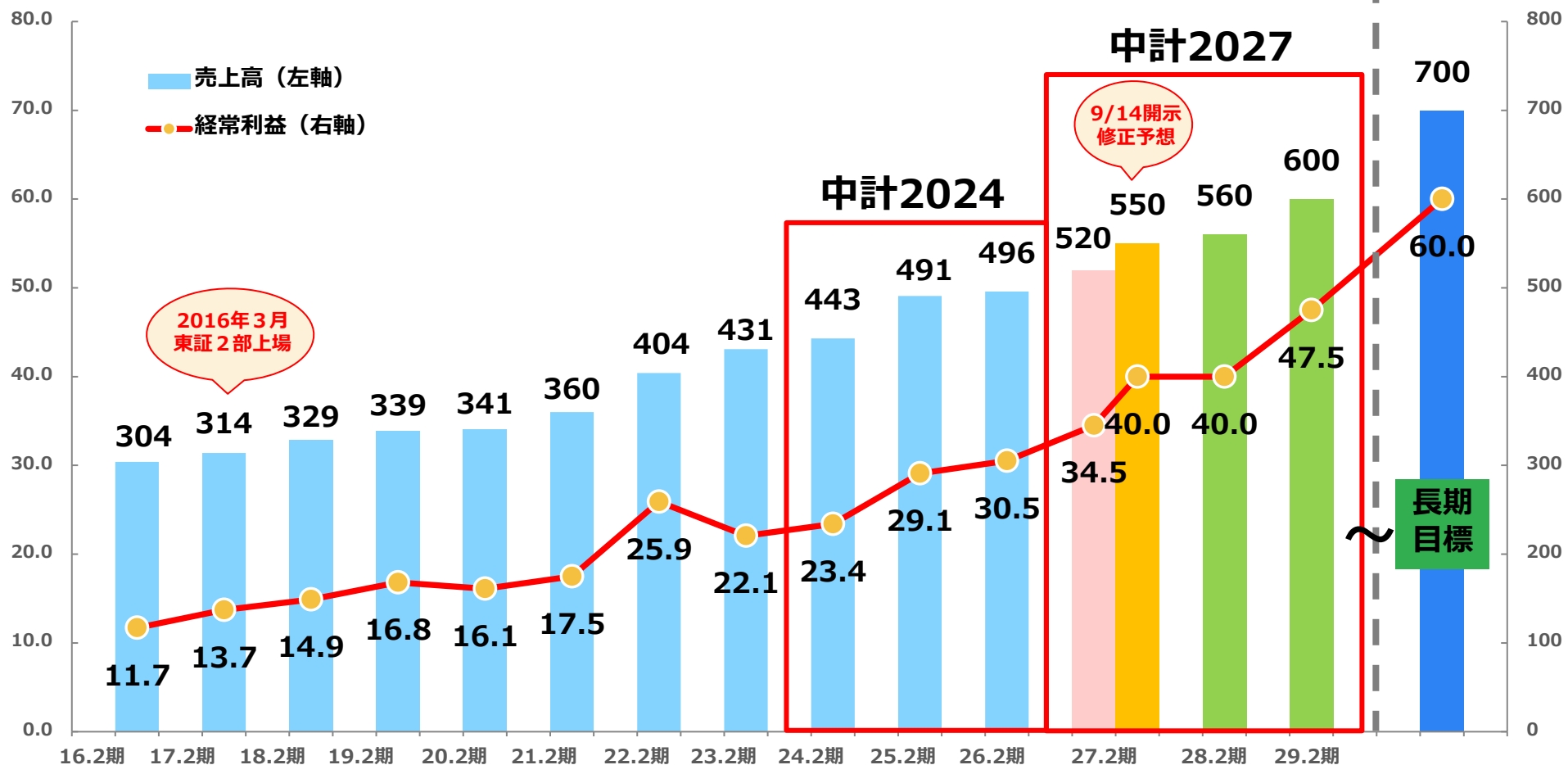


中本パックス株式会社

（2027年2月期～2029年2月期）

目標：ROE13%以上

（億円）

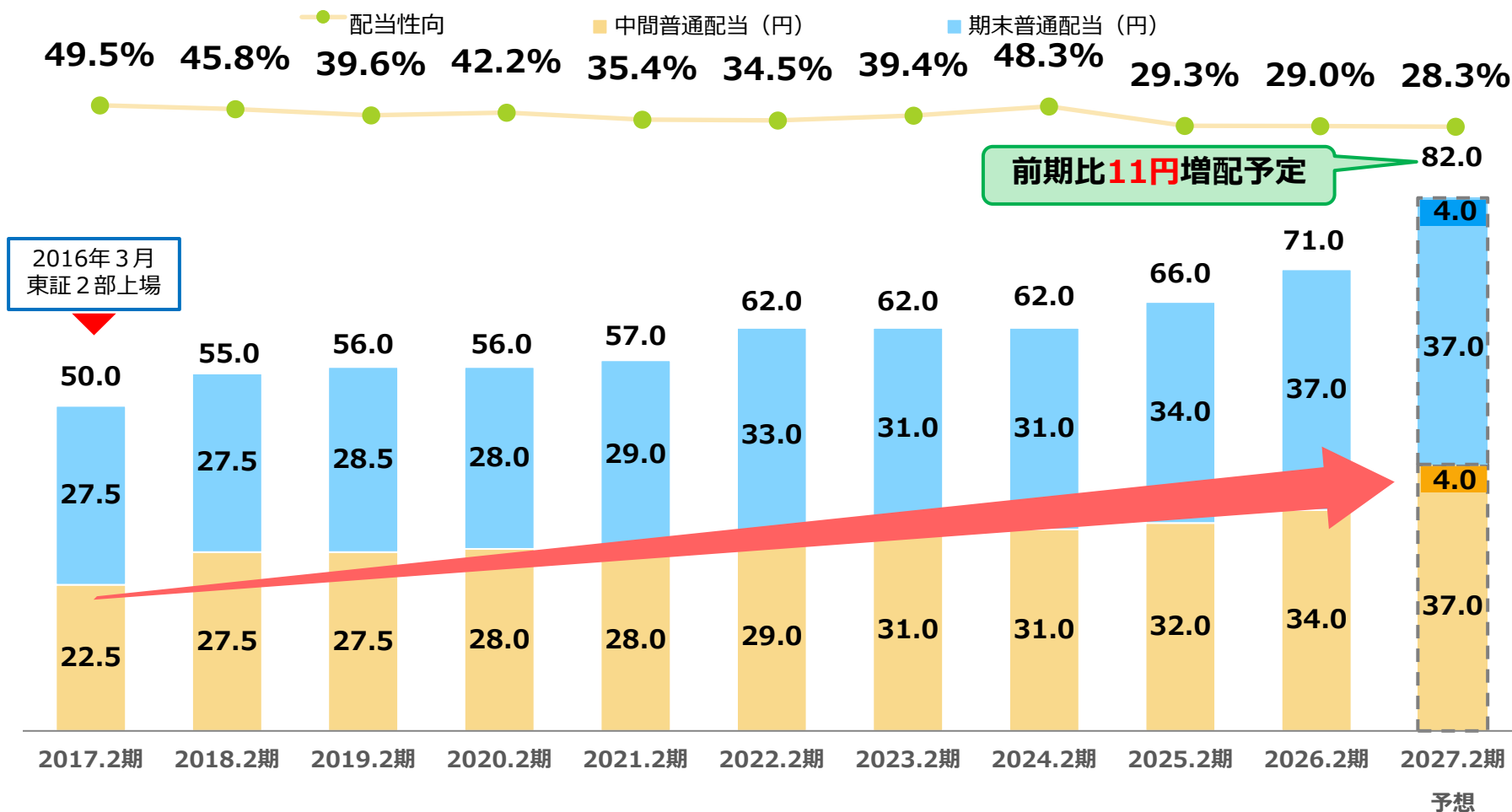


株主還元方針

- 将来の経営環境の変化に対応できるよう財務体質の強化と事業拡大に必要な内部留保の充実を図りながら、安定配当をベースとして業績に裏付けられた適正な利益還元を行う方針です。

2027年2月期は11円増配の年間82円配当を予定

11年連続累進配当予定



【ご注意事項】

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により実際の数値と異なる可能性があります。